

掘削機アタッチメント式非開削工法（フレックスドリル工法）の開発

京葉ガス（株）・不二公業（株）・フレックスドリル社・東京産業（株）の共同開発

開発の経緯

環境対策

非開削工法

工事コスト削減

新設工事における非開削工法導入のポイント

- ・ 安価であること
- ・ コンパクトで施工性が良いこと
- ・ 設備の有効活用と速やかな現場導入が可能であること

従来の大型非開削工法は能力は高いが...

- ・ 非常に高価
- ・ 設備大、施工スペース大

当社供給エリアの地域性を考慮すると
中距離（40m）程度の能力で十分

フレックスドリル工法

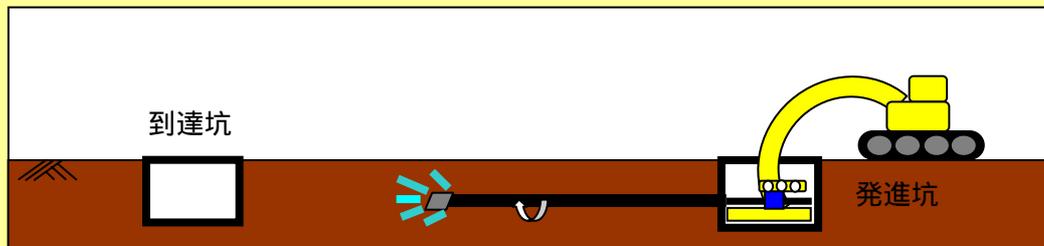
（ニュージーランドのメーカーと共同開発）

工法の概要

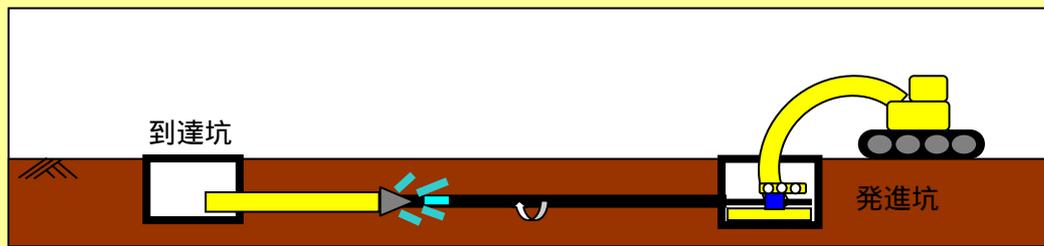
本体を掘削機にセット（地上からの円弧推進も可能）



先端より水を噴射・ロッドの推進



ポリエチレン配管の引込み



構成機材



フレックスドリル本体



コントロールパネル



掘削機との接続部



ロッド



給水ポンプ



バックリーマー

工法の特長



掘削機と油圧ホース接続



本体をアームに取付け



バックリーマーから水噴射

駆動源の油圧を掘削機から供給するため
パワーユニットが不要

コンパクトな本体を掘削機アームに取付け

水を噴射しながら
ロッド推進・配管引込み

設備の有効利用
イニシャルコストの低減

省スペースで施工可能
高い施工性

高い推進能力
配管のキズを防ぐ

今後の予定

- ・ フィールドテスト完了後、実現場にて導入予定
- ・ 都市ガスシンポジウムアネックスにて講演発表予定